

〔御湯殿の上の日記〕慶長八年十二月八日、うんそう、御あしたの物に參る、うんそうの御さか月、いつものごとく一こん參る。

〔殿中申次記〕十二月八日 一温糟、曇花院殿、一同等持寺、一同伊勢寺、

〔空華日工集〕應安三年十二月八日、駿州兵庫二居士、同喫紅糟、次駿州問紅糟之起、余爲檢佛祖統紀、出家成道篇、集衆講一篇、以答佛恩也、曰、牧牛廿獻乳糜、今紅糟其遺意也、

〔正風芭蕉流奧儀秘蘊集〕豎題横題之事、并落題詞書之事

秀逸に落題の句あるときは、前書あるべし、證句あり臘八に、はらわたを探て見れば納豆じる許六、これ落題なり、此句最初は臘八や腹を探れば納豆汁といふ句なり、翁芭蕉に呈す、翁曰く、是秀逸なり、然れども臘八にては、句の勢ひぬるしとて、句作り直したまふ、

〔書言字考節用集二時候〕分歲シツサイ活法、除衣長幼聚、別歲トクサイ東坡集、歲晚相與饋問爲饋歲、酒食相呼爲別歲、至除衣達旦不眠爲守歲、

〔日本歲時記十七月〕下旬の内に年忘とて、父母兄弟親戚を饗する事あり、これ一とせの間事なく過ぎにし事を祝ふ意なるべし、

〔改正月令博物筌十二月〕年忘年の暮に、親類朋友互に酒宴をなすをいふなり、唐土にも此事あり、名づけて潑散又は別歲といふよし、東坡集にも出たり、

〔秋苑日涉七〕民間歲節下 歲暮親友相聚飲宴、謂之忘年、又互相餽遺以賀卒歲、史記天官書曰、凡候歲美惡、謹候歲始、或冬至日、產氣始萌、明日人聚卒歲、一會飲食、發陽氣、故曰初歲、琅邪代醉編曰、淮人歲莫家人宴集、曰潑散、韋蘇州云、田婦有佳獻、潑散新歲餘、風土記曰、蜀之風俗、晚歲相與餽問、謂之餽歲、酒食相邀、謂之別歲、至除夕達旦不眠、謂之守歲、廣東新語曰、小陰次日爲酒、以分歲曰團年、歲除祭曰送年、月令廣義曰、歲時記都城以寒食冬節正旦爲三大節、交相餽問、諺曰、肥冬瘦年、又曰、歲除互相問、饋遺之禮、天下古今事同俗異、

〔東都歲事記四十二月〕別歲トクサイ當月下旬、親戚知己を邀へて饗する事あり、一年の間、事故なく過して、新年を向ふるを祝するの意なるべし、